



NO.451

R7年3月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

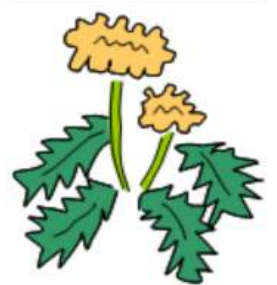
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



気候変動の影響？

施設長 木下昭二

この度、一週間以上に亘って延焼が続いている岩手県大船渡市の山林火災において、被害に遭われた皆様、また避難されている皆様にお見舞い申し上げます。火災の原因は2月にほとんど降雨がなく、乾燥状態と強風が重なったことが大きく影響しており、避難指示が出された世帯は約二千世帯、四千六百人に上り、多くの住民の方が避難生活を余儀なくされています。

5日～6日にかけてまとまった雪や雨が降ったことにより、やっと鎮火に向けてのメドが立ったようですが、報道によると、目視では火が消えているように見えても、再燃する可能性の火種が木の芯などに残っていないかなどを、サーモカメラを用いた確認作業等が今後必要である

る為、この原稿を書いている段階では、まだまだ完全消火を宣言するには至っていないようです。一刻も早い「消火宣言」と共に、住民の皆様が安心・安全な生活が戻ることを願っています。

余計なお世話？

一方で、3月に入っています。一方、暖かくなりかけては、また寒さがぶり返すといった状況で、まだまだ「春が遠いなあ」と感じています。このところずっと言われ続けていることですが、日本の四季に変化が見られ、「春と秋が短く」なって夏と冬化しているように、本当に感じています。

利用者さんの中には、皮膚感覚に過敏な反応が見られたり、特性のある方が少なからずあります。どんなに寒くても重ね着に抵抗のある利用者さんや、靴

下を履こうとされない利用者さんが見受けられます。利用者さんに了解を得て靴下を履いていない利用者さん数名の足を触らせてもらつと、「案外と温かい」と感じられる利用者さんもありますが、半数以上はやはり「冷たい」と感じました。「温かい」と感じた利用者さんでも、足の甲部分と裏部分では温度差があり、足の裏に関してはほとんどの方が「冷たい」と感じました。

昔（幼少期）の自身ことを思い返してみると、定かではないのですが、靴下は履いていない時期があったように思います。靴下よりもスボン下や、ももひき（私の田舎ではそう呼んでいました。今で言うヒートテックのパンツバージョン？）を履くことを嫌がっていた記憶が蘇りました。理由までは？ですが、やはり「肌感覚」や足にピツタ

リと「フィットする感覚」が苦手だったのかもしれない。

そんな経験のある私ができることではないのかもしれませんが、この時期に靴下を履いていない利用者さんを見ると、「足が冷たくないのかなあ」「どうして靴下を履かないのかなあ」と思ってしまう。昨今言われている「意思決定支援」的な考えで言えば、「自ら履かない」を選択されたのであれば、「履かせる必要はない」という結論になるのかもしれませんが、履かないことで、もし「しもやけ症状」が見られたとするならば、そのまま（靴下を履かせない）にしておくことが支援者として正解なのか？と、悩みは尽きません。「靴下を履いていない利用者さんを見る」たびに、年間でなくて良いので、この寒い時期だけでも「靴下が履けるようにチャレンジ」が出来ないものかなあ」と「親心」としては、思ってしまう。利用者さんから「余計なお世話です」と言われないように、考え続けたいと思います。



3月



「振り返り」

令和6年度を振り返り1班の総括を書かせて頂きます。今年度は、新たな仲間が1名加わり、利用者24名、スタッフ10名のチームでスタートしました。最後まで全員で走り抜くことができたことが一番の評価です。しかし、取り組むべき課題は山積みであり、その課題が具体的に見えた1年であったように感じております。具体的に言うと、①年々変化していく身体面と、②日々変化する心情へのサポートに丁寧さが不足していたことが挙げられます。週5日、1日5時間という貴重な時間をチームで活動していますが、時や日課の流れにただ身を任せるのではなく、「考える」ことをチームで習慣化していきたいと考えています。「命」あってこそそのやりがいや楽しみ、「やりがいや楽しみ」があってこそその命。この両輪が班活動を通じて豊かなものになるよう創意工夫して次年度を迎えたいと思います。

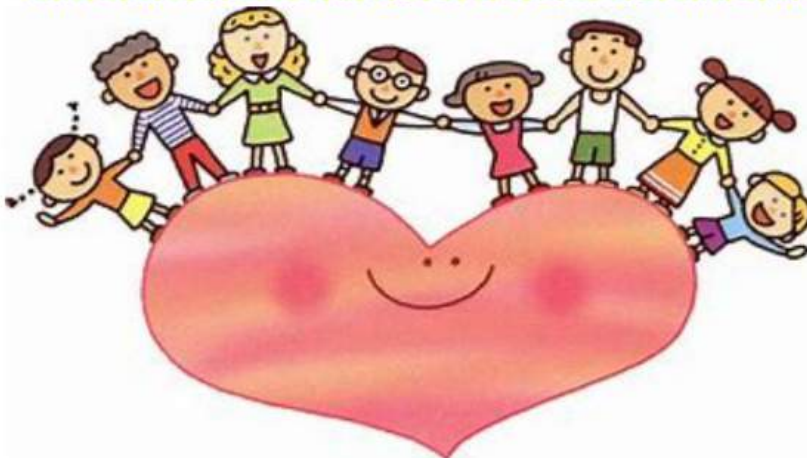
1班 業務課長 本田誠

「頑張った大賞！！」

今年度の2班を振り返る中で、利用者Aさんの手術はとても大きな事柄でした。健康診断の結果を受け精密検査を受診し、Aさんが早期に手術の必要性がある疾患であることが判明しました。診断を聞いた時、正直ショックを受けました。しかし、時は刻々と過ぎていきます。手術が決まった後は、若手の担当支援員Bさんと一緒に手術に向けた準備、そして入院中、手術後の生活の安定のための課題と対策（手術に向けてAさんへの説明、手術後の安静を保つための体制整備、退院後の施設内での生活の仕方など）について相談しながら進めていきました。準備から術後まで落ち着いて対応していたB支援員でしたが、手術後に実はすごく不安を感じていたということを知り、打ち明けてくれました。

幸い手術も成功し、入院から退院まで安静を保ち、食事の制限はありますが、以前と変わらない日常生活を送れるようになったAさん。そして、疾患が判明してから、不安を抱えながらも淡々と準備を進めAさんを支え続けたB支援員。2班を代表して、お二人に今年度の頑張った大賞を送りたいと思います。

2班 支援課長 岩田幸児





「家族」

今年度は個人的にもチームにとっても「家族の存在」を考える大きな1年となりました。2名のスタッフが担当利用者Hさんのご自宅へ訪問して、ご家族から直接これまでのHさんの歩みを伺う機会を頂きました。園内報告で発表する2人からとても熱いものを感じました。一方で、ご家族とのお別れもありました。利用者の方々は一見、普段と変わりのない様子に見受けられます。しかし、心のどこかで抱える寂しさをどのように受け止められるか、帰省がなくなり生活スタイルが変わっていくことをどう伝えていくか、本当に悩む日々がありました。

それぞれのご家族の想いを汲み取り、繋いでいく為に何が必要なのか、支援者として出来る事は何か。答えのない、考え続けなければならない課題だと思います。月並みですが「その人がその人らしく人生を全うする。」その支えの一端を担えるようにチームとして取り組んでいきたいと思っています。

3班 課長補佐 森田康之

「はりきって運動しています」

昼食後の昼休みが終わるのを待って、「さあスタート!!」。以前は健康の為に午後の散歩、歩行運動も、気分が乗らず消極的であったNさんですが、機能訓練指導をしてくださる村上先生からの宿題や、ゲーム性をもたせた運動課題を歩行に取り入れたところ、とてもはりきって取り組まれるようになりました。そこには、張り合う仲間の存在も大きく、Sさんと共に張り合いながらの取り組みです。歩行の合間に、踵の上げ下ろしや腿上げ、誰がふら付かずに片足立ちをしていられるか、また誰が一番高い場所に手が届くかと手、背、腰を伸ばすストレッチ等の課題が入ります。お互いに上手だと褒め合い、がんばれと応援しあい活気に満ちた散歩の時間となっています。そう簡単に歳老いてもらうわけにはいきませんから頑張ってください!!。

4班 主任 石丸直美



療育雑記

「される→する」

課長補佐 森田康之

私事ですが、幼少期に家族でキャンプに行ったことがきっかけで、数年前よりキャンプにのめり込んでいます。子供のころは行き先も、道具も、いわゆるキャンプ飯も、両親が考えたキャンプを楽しんでいました。地元が海に面した地域であったことから、砂浜でキャンプすることが多く、面倒な荷下ろしから逃れるため、現地に着くや否や車内から飛び出して、一目散に沖合まで泳いだのは良い思い出です。（もちろんすぐに捕まりましたが。）

それから約20数年が経ち、自分でキャンプを始めようと思いついた頃の話です。いざキャンプ！の前にいくつかの課題が待ち構えていました。まずは「場所」です。ネットで「初心者 九州 キャンプ場」と検索します。

無数に出てきます。自分に適したキャンプ場が分かりません。次に「道具」です。幼少期の思い出から必要な道具は何となくわかりますが、0から購入するとなるとなかなかの出費でした。

結果的にキャンプが趣味の同僚についてきてもらい、日常の喧騒から離れた素敵な夜を過ごすことができました。一夜明け、テントを沈めてしまいかもしれないほどのどしゃ降りです。早朝撤収を余儀なくされました。「天気」も大事な情報だと学びました。これも始めた頃の良い思い出です。

幼少期のキャンプを「されるキャンプ（受動的）」再び始めたキャンプを「するキャンプ（主体的）」とします。どちらもとても楽しいイベントですが、決定的な違いがあります。それは主体がどこにあったかです。

「されるキャンプ」の主体は両親であり、子供の私は受け手側にいました。安全面、経済面など全てが守られた中で楽しく過ごすことができました。一方で「するキャンプ」の主体は私です。様々な面のリスク管理、情

報収集が必要になります。一目に「するキャンプ」が大変なのですが、言わずもがな充実感は格別です。また、ある種の達成感も味わうことができます。

前置きがとても長くなりましたが、ここから本題です。この1年間、私の所属するチームの個人外出、レクリエーションを振り返った時に「主体性がどこにあったか」が共通テーマだと気が付きました。というのも、計画の殆どが「集団」を取り除いたものになっていたので。2カ月に1回の機会に利用者の皆さんがより満足して頂ける内容を考えた結果、集団を分解して、より小集団での活動形態になったのだと思います。企画担当の職員は集団でのそれと比べて、活動内容、時間、金銭調整など準備に掛かる負担は増えます。しかし、より利用者の主体性を求めた末に年間を通して集団を分散させる形を選択しました。

レクリエーションの後には面白い現象が起きます。「映画観たのが楽しかった」「滝を見に行きました」「初詣に行きまし

た」同じ日に実施したレクリエーションですが、活動内容を分散させたことで様々な感想が聞かえてきます。お話される皆さんの表情はどこか満足気にも見えてきます。

班全体で活動すると利用者、職員を合わせて30名を超える大所帯になります。利用者の意思を尊重しているつもりでも、それだけの数になると個々の満足度を100%にすることは容易ではありません。結果として職員が主体的な役割になってしまいます。

現実的には利用者皆さんの想いや表現が汲み取り切れていません。提案頂いても、様々な事情から妥協しなければならぬ計画もあります。そのような状況でも「される（受動的）」から、より一層「する（主体的）」な企画、生活に一歩でも近づけるように精進していきたいと思います。



ア ン パ

「爆上がり」

支援員 榎田真知子

2月14日(金)、利用者の方が手作り体験をしたいと希望されたので、南阿蘇の「ハリースキャンドル」にて、ポタニカルジェルキャンドル(壁掛け用)作りを体験しました。まず各々好きな型を選び、熱々のワックスの中に好きな香りを混ぜ、それを型に流し入れ、その上を選んでドライフラワーを配置。その際にワックスの固まりが早く、職員が焦る中、利用者さんは冷静に配置され、個性溢れる素敵なおキャンドルが出来上がり、それぞれ嬉しそうにケースに収納されていました。

続いて、昼食「マルデン」にて、あか牛のハンバーグステーキを注文。前菜から手の込んだお料理が出てくる度に「うわー」「すごい」「おいしい」の連発。熱々の鉄板の大きなハンバーグに皆さん爆上がり。とても美味しそうに召し上がられています。今回、非日常的空間に心と体の活力を回復させ、また明日から「がんばろう」と思うことができるレクレーションでした。



事務

「事務」

副主任 酒井望美

三気の里の事務は事務長と女性4名、計5名で勤務しています。



事務所が本体の建物とは別の場所にあるので少しわかりにくい場所にあります。グラウンドにある体育館に併設しています。私は事務に勤務して16年目になります。事務というと、座ってデスクワークのイメージが強いと思いますが、経理・事務、施設・整備関係はもちろんですが、電話対応、接客、とても幅広くレギュラーな仕事もたくさん起こります。自分の担当の仕事をしながら、電話が鳴り来客があり、一つの仕事に集中するというよりは、複数の仕事を同時に行うかたちです。決して得意なほうではありませんが、みんなに助けてもらいながら、「笑顔と報連相」をモットーに頑張っています。

事務の良いところは、人との繋がりが多いことです。繋がりを大切に様々な課題に気づき、改善していけるように情報発信をし、様々な職種とのコミュニケーションを大切に、気軽に聞くことが出来る雰囲気づくりや、なんでも相談しやすい場所でありたいと思います。



3月スケジュール

02(日) まなびのわくわく広場!
(於:花畑広場)にBeTREE出店
14(金) ゴールドクラブ
15(土) 菜の花コンサート
貯水槽清掃
19(水) 嘱託医来診
21(金) 退任式
アンパレクリエーション

22(土) スタッフ全員研修
24(月) 避難訓練

毎週月曜日 訪問理容サービス
毎週火曜日 BeTREE役場販売

BeTREE
<営業時間>9:30~17:30



betree314

衛生委員会

「衛生委員会」

副主任 久米善久

衛生委員会は、スタッフの健康障害の防止や健康の保持増進、労働災害の原因と再発防止対策、衛生教育の実施計画、定期健康診断などの結果に対する対策を労使一体となり調査審議を行う事を目的として設置されています。スタッフの健康診断、ストレスチェックの結果に沿って、心身に問題を抱えた際は個別に産業医さん、保健師さんにケアを含めてアドバイスを頂き、その時の状態、状況に沿った対応策が図れるよう努めています。また、事業所における労働災害防止、健康管理の方向を定め、その促進を図るため、産業医さん、保健師さんを含め話し合い、危険な箇所、衛生、環境面に問題があった際は改善に向けて取り組んでいます。快適な職場環境、スタッフの健全な心身があっ

て、利用者さんへの良い支援に繋がりが、快適な生活へと繋がっていきのだと捉え、今後も全ての方々が安心、安全に過ごす事ができるような働きかけていきたいと思います。



沢山のご厚意

ありがとうございます

【寄付物品】

小牧 博則様	赤星 央子様
中嶋 久枝様	森川 琇介様
吉田 和信様	柴田 博子様
坂梨 清美様	坂口 正浩様
大田黒 隆様	
千田 みゆき様	
井口 チズヨ様	
岩切 美佐子様	

編集後記

寒かった冬がようやく終わり、春がやってきました。冬眠したと思うくらい寒さが苦手な私には、待ちに待った季節です。しかし、それと同時に花粉との戦いも始まります。想いは複雑ですが、それでも春は好きな季節です。

吉田 理江



【後援会ありがとうございます】

金森 保様
前田 克英様

【V.O】

前淵 隆子様 プラッシング